

輸送 ドイツ鉄道の信頼を再び得るために

原題：Rebuilding the reputation of Germany's railways
誌名：Railway Gazette International Vol.168 No.9 2012-9 p46-52

マレー・ヒューズが、ドイツ鉄道の技術担当役員のVolker Keferにドイツ鉄道の技術哲学など最近の話題をインタビューした。具体的には、ICEの車軸の問題、新車のトラブル防止のための新しいプロセス、車両保守をDB直営で行う意義、ETCSの導入の対応、ICE-Tの振子装置の使用再開、ICEのロンドン乗り入れ、次期主力高速車両ICxの納入時期などである。



DBの信頼性にかかわるトラブルの多くは2008年に起きたICE3の車軸のクラックによる低速での脱線事故から始まった。この事故以降車両の検査周期が短縮され、超音波探傷のために工場にたびたび入れるため、DBの虎の子の編成の稼働率を落とすことになった。

車両 ロシア国鉄の広軌と標準軌に対応した新形寝台車両がロシアと欧州間で運行が始まる

原題：Dual-gauge sleeping cars will roll east and west
誌名：Railway Gazette International Vol.168 No.9 2012-9 p106-110

ウィーンにあるシーメンス社の工場では、現在ロシアの車両メーカーTvZ社と共同で広軌と標準軌の両方で運行が可能なロシア国鉄向け新形寝台車両の製造が進められており、近くロシアと欧州の確認試験に供される予定である。車両は鋼製で、寿命は40年を想定している。台車は広軌ではTvZ社、標準軌ではシーメンス社により新しく設計されている。

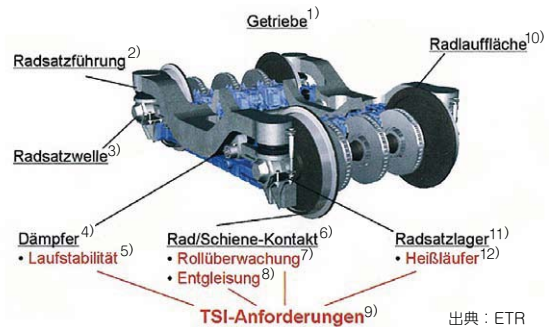


広軌と標準軌用に設計された電気配線や空気配管等の連結用機器を含めた多機能連結装置

車両 COMORAN-走り装置の走行状態モニタリングシステム

原題：COMORAN-Ausgefeilt Condition Monitoring für Schienenverkehrsanwendungen
誌名：ETR：Eisenbahntechnische Rundschau Vol.61 No.9 2012-9 p74-79

鉄道の運行や保守経費削減への要望は年々高まりつつあり、列車の走行中における走り装置の状況を把握し、安全かつ経済的な保守管理を行うことの重要性が認識されるようになってきている。COMORANはKnorrブレーキ社が車両の台車部品、特に軸受や輪軸に関して走行時の状況を各種センサーにより監視すると共にそのデータを収集・分析し、保守に生かすために開発したモニタリングシステムである。



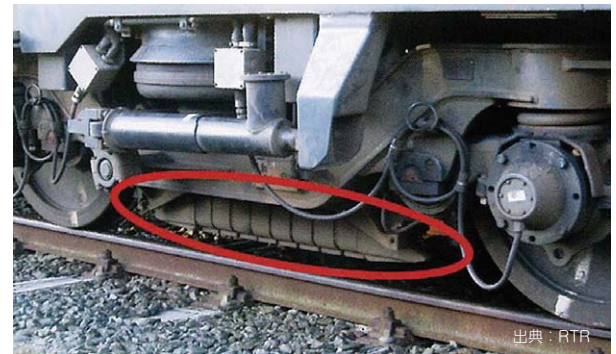
部品および走行状態の監視と診断

- 1) 駆動装置 2) 輪軸案内 3) 輪軸 4) ダンパ 5) 走行安全性監視 6) 車輪/レール接触状態 7) 回転状況監視 8) 脱線監視 9) TSI-要求項目 10) 輪軸踏面 11) 輪軸軸受 12) 過熱状況監視

車両 オランダ鉄道でのレールブレーキの開発状況

原題：Magnetic Track Brakes: Tests in the Netherlands
誌名：RTR Vol.52 No.3 2012-9 p71-74

オランダでの電磁吸着レールブレーキの試験状況、使用状況について述べている。台車に取り付けられたレールブレーキは、運転士が非常ブレーキを扱うと空気圧でレールに押し付けられると同時に電磁力によりレールに吸着する。粘着の悪い路線での現車試験では、状況が非常に悪いときに140km/hから3500m要した停止距離が、レールブレーキの使用により半減した。現在3分の2の車両に装備されている。



試験車両に取り付けられた電磁吸着レールブレーキ



WRT (海外鉄道技術情報) は海外主要鉄道誌の記事抄訳を含め、海外の最新の鉄道技術情報をタイムリーに紹介する季刊誌です。ここに紹介した記事はその一部です。
⇒新刊案内、バックナンバーは総研HP (www.rtri.or.jp) をご覧ください。
⇒問合せ (研友社) TEL: 042-572-7157 HP: www.kenf.or.jp